

## 平成21年度第7回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成21年12月24日（木）9:30～12:00

場所：三重県水産会館 4階 研修室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

- (1) 二級河川朝明川水系河川整備計画策定に向けて  
朝明川水系の河川整備計画素案を説明し、主に次のような質疑応答を行いました。

(委員)

魚道設置はどのように考えているか。

(事務局)

改築の際には必ず魚道を設置する。

(委員)

河口部で霞4号線の計画があると思うが、川が変わることによる干潟、高松海岸の砂浜への影響を考える必要があるのではないか。

(事務局)

霞4号線の具体的な計画における協議がないため、今現在策定している整備計画の中で影響を検討する状況にはなっていない。今後、協議が出てきた段階で環境も含めて協議するような方向で考えている。

(委員)

過去の実績降雨で確立規模の評価をされているが、そのときの水位、流量を検証しておかないと、確立降雨だけで、基本方針の基本高水流量等の評価ができない。

(事務局)

整理する。

(委員)

出来山井堰で計画規模が急に変わるのなぜか。

(事務局)

背後地の状況によるもので、出来山井堰より下流は築堤部であり、低平地に

位置しており、上流側は背後地が水田であり、少し高くなった位置に人家等があることから、ここで計画規模を変えている。

- (2) 二級河川堀切川水系河川整備計画策定に向けて  
堀切川水系の河川整備計画素案を説明し、主に次のような質疑応答を行いました。

(委員)

防災ため池はどのような考えか。

(事務局)

防災ため池事業で、今の農業ため池に流出抑制機能を付加して整備を進めており、今回策定する河川整備基本方針、整備計画においても、流出抑制効果を見込んだ計画として考えている。

(委員)

魚類・鳥類等生息環境の検討にあたっては、県の管轄区間だけでなく、上流部の鈴鹿市管轄区間の改修計画も含めて検討する必要がある。

(事務局)

鈴鹿市の改修計画も含めて整理する。

(委員)

河川改修し流量を増やしても、ネック点である近鉄橋梁が解消しない限り、治水上の課題解決は出来ないのではないか。

(事務局)

抜本的な対策として、近鉄橋梁の架け替えが一番大事になってくる。ただ、向こう30年間の河川整備計画において、実施可能か否かについて現在検討中であり、当面実施する方策として、実現性があり、浸水被害を少しでも低減できる方向で検討していきたいと考えている。

- (3) 今後の予定

次回の流域委員会については、年明けに日程調整を行うことで確認。

## 5. 閉会